



撮影：飯窪敏彦

主催 青森県立美術館
AOMORI MUSEUM OF ART

企画 棟方志功記念館
Munakata Shiko Memorial Museum of Art

棟方志功生誕記念

写真家

棟方志功研究家・孫

映像出演

飯窪敏彦 × 石井頼子

登壇

「写真家が見た棟方、孫から見た棟方」

飯窪敏彦の写真とインタビュー映像を軸に、棟方とともに暮らした孫・石井頼子の解説をまじえて振り返る——外から見た棟方・内から見た棟方の姿。

2025年9月5日(金) 14:00～15:30(13:30開場)

場所：青森県立美術館シアター 入場無料

1903

棟方志功生誕記念

写真家

棟方志功研究家・孫

映像出演

飯窪敏彦×石井頼子

登壇

「写真家が見た棟方、孫から見た棟方」



1969年 ねぶた祭を楽しむ 撮影：飯窪敏彦

飯窪敏彦 写真家

1942年、札幌市生まれ。早稲田大学文学部(美術専修)を卒業後、文藝春秋新社に入社、写真部員となる。1991年、青森県立郷土館にて写真展「棟方志功」を開催。2002年、文藝春秋を退社し、フリーの写真家として活躍。2025年、ノエビア銀座ギャラリーで飯窪敏彦写真展「棟方志功 鎌倉-青森」を開催。

石井頼子 棟方志功研究家・孫

1956年、東京都生まれ。慶應義塾大学卒業後、2011年の閉館まで棟方板画美術館に学芸員として勤務。2018年より南砺市立福光美術館特別専門員。展覧会監修や執筆活動、講演などを通じ、知られざる棟方の紹介に努めている。著書に『素顔の棟方志功 仕事と暮らし』(2025年、淡交社)、『棟方志功作品集 てのひらのなかの森羅万象』(2022年、東京美術)など。

棟方志功 (1903-1975) 板画家

青森市生まれ。21歳の時に画家を目指して上京。24歳で初めて木版画を彫る。板画は白と黒の対比が美しいとする一方で、摺った紙の裏から彩色を施す「裏彩色」によって鮮やかな色もつけた。1956年ヴェネツィア・ビエンナーレで国際版画大賞を受賞。世界のムナカタとして名を馳せる。板画のほか、倭画、油絵、書、本の装丁、パッケージデザインなど幅広く活躍。

開催中の展覧会

コレクション展2025-2 棟方志功没後50年記念展「青森の子 世界のムナカタ」
7月19日(土)～11月3日(月・祝) 9時30分～17時(入館は16時30分まで)
[観覧料] 一般700円、大学生400円、18歳以下および高校生無料

棟方志功の誕生日9月5日に行う記念イベント。

1968年から1971年の約3年間、鎌倉と青森の棟方を撮影しつづけた写真家・飯窪敏彦と、棟方の長女けようの長女であり棟方志功研究家として著書も多数執筆する石井頼子。仕事で棟方に密着し、アトリエやふるさとでの姿を写真に収めた飯窪による外側から見た棟方の姿と、幼い頃はアトリエに入ること許され、ともに暮らし間近に接してきた石井が知る内側から見た棟方の姿。飯窪の写真とインタビュー映像を軸に、石井の解説をまじえて振り返る棟方志功の内と外。



1968年 早朝に棟方式健康法で鎌倉のアトリエの庭を歩く 撮影：飯窪敏彦

青森県立美術館

〒038-0021 青森市安田字近野185

TEL 017-783-3000

MAIL (棟方志功記念館事務局)

info@munakatashiko-museum.jp



Webサイト